

# 大 学 史 研 究 通 信

第 50 号、2007 年 4 月 30 日 (月)

大学史研究会

第 50 号の内容：会員ニュース・新入会員自己紹介・トロウ教授の訃報・2007 年度年会費納入のお願い・会員名簿の正誤表作成と情報提供のお願い・会員新刊ユース・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

## 会員ニュース

### 新入会員

津田 徹 (つだ とおる) 会員

所属： 芦屋大学臨床教育学部教育学科

研究テーマ： 西洋教育史

田村 幸男 (たむら ゆきお) 会員

所属： 山形大学

研究テーマ： 大学経営論，戦後大学史，高等教育行政論

大西 巧 (おおにし たくみ) 会員

所属： 関西大学 大学院生

研究テーマ： 文部省「八年計画」，北陸帝国大学設立運動，日清戦後経営

林 雅代 (はやし まさよ) 会員

所属： 南山大学

研究テーマ： 南山大学史，戦後日本高等教育史，米国 GI Bill の機能

藤田 大誠 (ふぢた ひろまさ) 会員

所属： 國學院大學 研究開発推進機構 校史・学術資産研究センター

研究テーマ： 近代神道史・国学・皇室制度史

### 学会賞受賞

瀧井 一博 会員

『ドイツ国家学と明治国制—シュタイン国家学の軌跡』(ミネルヴァ書房刊) に対し、朝日新聞社の「大佛次郎賞」。(本書については『大学史研究』第 16 号に掲載された 3 本の書評を参照されたい。)

鳩沢 歩 会員

「プロイセン国鉄における内部労働市場の成立と文官任用制度」『経営史学』(第 40 巻第 2 号所収) に対し、経営史学会の「学会賞」。

## 新入会員自己紹介

津田 徹 会員

このたび本研究会に入会させていただくことになりました津田徹と申します。専門は古代ギリシアの教育史で、これまでプラトン、アリストテレスの教育思想について研究を進めてまいりました。本研究会の入会の理由は二つあります。

一つ目の理由は、自らの専門研究との関係からです。西洋中世においてプラトン、アリストテレスの受容と発展がパリ大学やオクスフォード大学などの高等教育においてどのようになされてきたのかという点につきましては議論のあるところであると思われます。二つ目の理由は、少し長いですが、現職となりまして今日の高等教育を考えるにあたって、大学教育の存在理由が大きく問われていることを実感するようになり、今後の高等教育ないし大学教育は歴史的研究の立場からどのように捉え直すことが可能だろうか、と思うようになったことにあります。特に大学史研究の立場から以上の問題を考察すれば、積極的な考えが得られるのではと考えております。

研究会の会員の皆様とお話できる機会を楽しみにしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

田村 幸男 会員

山形大学で総務担当の理事をしております田村と申します。行政出身で、法人化前の事務局長に近い役割です（山形大は事務局長制を廃止）。

現在の最大の関心事は、商売柄、山形大学の持つ様々な問題点の理論的・実践的解明とその対応策についてです。というわけで、昨年「わが国の分散キャンパスの研究」を書いてみて（山形大学紀要〔社会科学〕、下記URLにPDF形式でアップ）、現実の課題が実は歴史的条件に大きく規定されていることを実感しました。個人的な興味も加わって歴史的観点から大学を見てみたいと思い、入会させていただきました。

日々の雑務に忙殺されていて、なかなかまとまった勉強ができませんが、皆様のおじやまにならない程度に後ろの方からついてまいりますので、よろしくお願いいたします。

(<http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/kiyou/kiyous/kiyous-37-1/image/kiyous-37-1-053to090.pdf>)

大西 巧 会員

昨春まで小学校教員を 25 年余り勤めました。一生に一冊は本を書き残したいという思いを断ちがたく、大学院に社会人入学し研究に専念しています。現在、関西大学大学院文学研究科博士後期課程 2 年に在学中です。将来は大学の教員になり研究を続けたいと思っています。

研究テーマは、明治後期における高等教育政策について、特に高等教育機関の増設過程に興味を持っています。教育政策・教育史・教育社会学の面からテーマに迫り博士論文にしたいと考えています。

大学史の分野で偉大な業績を上げておられる先生方と同じ研究会でやっていけるか心配もありますが、なによりも同じ研究会に参加できる喜びでいっぱいです。時間が自由になる学生の立場をいかし、研究し発表していく覚悟です。よろしくご指導ください。

林 雅代 会員

もともとは近代日本の子どもの社会史に関心がありましたが、このたび大学史研究会に入会させていただきましたのは、勤務先の南山学園の創立 75 周年にあたり、大学部

門についての記念誌編纂業務に関わったことが契機です。

カトリック男子修道会である神言会を経営母体とする南山大学は、1947年に名古屋外国語専門学校として発足したのち、1949年に新制大学となりました。1953年から1962年頃まで置かれた、米軍兵を主な対象とする「南山大学インターナショナル・ディヴィジョン」の史料整理と分析を行う中で、南山大学という日本の私学の一つが持つ特殊性と、その特殊性から見える日本の高等教育の特質に興味を持ち、高等教育史を勉強したいと思い立った次第です。また、キリスト教系学校は従来ミッション系と一括りにされがちであるように思われますが、カトリック系学校とプロテスタント系学校では、対象とする社会層に違いがあり、それが占領期頃の米軍との関係に反映していたのではないかと考えております。拙稿「南山大学インターナショナル・ディヴィジョンの開設と終焉」（『アルケイア』南山大学史料室、2007年）をご一読頂ければ幸いです。

どうぞよろしくお願いたします。

藤田 大誠 会員

私は、本年度より國學院大學に設置された研究開発推進機構の一機関である校史・学術資産研究センターに勤務してゐます。私個人としてはこれまで、明治15年に成立した国学的教育機関である東京大学文学部附属古典講習科、皇典講究所（明治23年に國學院設置）、皇學館の成立過程やその展開について聊か検討してきました。

なほ、國學院大學は、母体となる皇典講究所の創立から今年で125年を迎へ、大正8年4月に明治・法政・中央・日本・同志社とともに大学に昇格した伝統ある私立大学の一つです。大学の年史も立派なものを残してきましたが、これまで大学教員が自らの校史を研究する機関を有してゐませんでした。私は今後、同センターにおいて、広く日本の高等教育史、近代人文学の形成過程、或いは国学史上における皇典講究所・國學院の位置付けについて、地道に研究を深めていきたいと考へてをりますので、会員の皆様には色々ご教示を戴ければ幸ひです。

### トロウ教授の訃報

本年2月24日、マーチン・トロウ先生が脳腫瘍のためお亡くなりになりました。「エリート、マス、ユニバーサル」の3段階にわたる高等教育の発展段階説はあまりにも有名で、その名も「トロウ理論」、「トロウ・モデル」と呼ばれ、30年以上経た今日でも影響力は色褪せていません。アメリカ、日本、そして世界に名をとどろかせたトロウ先生の偉業の下に、これまでの日本における高等教育研究の発展があったとみるのは決して過言ではないと思われます。

私事で恐縮ですが、今からちょうど5年前。2002年3月に、著書『高学歴社会の大学』の訳者であり、筆者の指導教授である喜多村和之先生に率いられ、ゼミ生数名とともにカリフォルニア大学バークレー校の高等教育研究センターを訪問しました。トロウ先生にはその折はじめてお目に掛かりまし



たが、周囲の先生方との対話に真剣な面持ちで鋭く切り込んでいかれ、しだいに議論が白熱していく様子にはただただ圧巻された記憶が残っています。その一方で、トロウ先生はパークレーのシンボルのカンパニールに自ら昇られ、私ども外国から訪れた学生たちに丁寧に眼下の景色を案内してくださいました。穏やかな温かい笑みがこぼれた先生のお姿は大変印象的で、こうしたお心配りにお人柄のほどが偲ばれます。このたびの訃報は本当に残念でならず、たった一度お目に掛かっただけのゼミ生たちもみな同様の思いでいるようです。トロウ先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



今回は特別に、もうお一人の訳者である天野郁夫先生に追悼の辞をご寄稿いただきました。ご多忙のところ、快くお引き受けくださいました天野先生には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(事務局 杉谷祐美子)

## トロウ教授を偲ぶ

思いがけず、マーチン・トロウ教授の訃報に接することになった。伝えてくださったのは、日大文理学部の羽田積男教授である。

いわゆるトロウ「理論」に触発されて書いた、私の『高等教育の日本的構造』が昨年、中国で翻訳出版された。それもあって10月に「トロウ『理論』と日本高等教育の大衆化」というタイトルで、北京大学など、いくつかの大学で講演をする機会があった。また11月には、広島大学の高等教育研究開発センターの研究集会で、「トロウ再考」をテーマに話をさせていただいた。私にとって、トロウ・ルネッサンスとでも言うべき1年であった。今度お会いする機会があったら、それやこれや、ゆっくり話してみたいと思っていただけに、痛恨の思いである。パーティの席上などで、背を丸めて腕を組み、眼鏡を口にくわえて話し込むトロウ教授の姿を、再び見ることができないのが、残念でならない。

トロウ教授が、アメリカの、いや世界の高等教育研究の発展に果たされた役割には、きわめて大きなものがある。喜多村和之さんと2人で教授の主要論文を訳して『高学歴社会の大学』を刊行したのが、1976年。いまではトロウ教授の名前は知らなくても、「エリート・マス・ユニバーサル」という言葉を知らない高等教育研究者はいないだろう。当時はなかった「マッシュフィケーション」という言葉は、トロウ教授の「理論」から造られたものといってよい。

トロウ教授自身はその発展段階説を謙虚に、高等教育の構造＝歴史「理論」と、自ら括弧付きで呼んでおられた。発展段階「理論」となれば、その歴史的な妥当性が問われる。トロウ教授は、その検証の場をもつばらヨーロッパに求め、そこでの高等教育のマス化・ユニバーサル化について、次々に論文を発表してきた。喜多村和之監訳の『高度情報社会の大学』には、その主なものが集められている。読み返してみると、トロウ教授が、自分の「理論」の妥当性を確信しながらも、ヨーロッパとアメリカの大きな違い、というよりアメリカの独自性を、つねに再確認させられ、比較研究の枠の拡大の必要性

を痛感していたことが感じられる。

教授は、何度か日本に滞在し、また喜多村さんや私だけでなく多くの日本人研究者と交流を持っておられた。知識や情報量は、少なくなかったと思われるが、日本の高等教育の問題について発言されることは、ほとんどなかった。私の考えではトロウ「理論」の妥当性を検証するには、日本と同時に韓国・中国など、東アジア諸国をもう一つのフィールドとして、設定する必要があるのではないか。韓国のユニバーサル化、中国のマス化の現状を見聞するにつけ、そのことを、考えさせられる。

もちろん、先達の「理論」を発展させることは後進の務めであり、しかも日本で仕事をし、中国や韓国とも交流を持ちながら、それを怠っている私たちの方に、その責めがあることは重々承知している。それでもなおトロウ教授との、この問題についての対話が必要であった。ささやかながら自分なりに、トロウ「理論」の再検討作業を始めていた矢先だけに、喪失感は大い。

トロウ教授のご冥福を心より祈りたい。

天野郁夫（東京大学名誉教授）

## トロウ教授の略歴

- 1926年6月21日、New York に生まれる。
- 1947年、New Jersey の the Stevens Institute of Technology で機械工学の学士取得。
- 1956年、Columbia University で社会学の博士取得
- 1953年～1957年、Vermont の Bennington College で教育と研究に従事。
- 1957年、University of California, Berkeley の社会学部講師に着任。
- 1958年、Center for Studies in Higher Education (CSHE) へ移動。
- 1960年、Katherine Bernhardt さんと結婚。
- 1962年、助教授に昇進。
- 1973年、OECD の会議で討議報告書、Problems in the Transition from Elite to Mass Higher Education を提出(エリート・マス・ユニバーサルという発展段階を提示)。
- 1968年、教授に昇進。
- 1977年～1988年、CSHE のセンター長。
- 1991年～1992年、the Academic Council of the Academic Senate の座長。
- 1993年、名誉教授。
- 1997年、the Berkeley Citation for Distinguished Achievement and Notable Service to the University を受賞。
- 2006年、the Howard Bowen Distinguished Career Award を受賞。
- 2007年2月24日、永眠（80歳）。

## 2007年度年会費納入のお願い

本年度も、年会費納入お願いのご連絡を申し上げます。

大学史研究会の実収入は会員各位からの年会費に大きくよっております。昨年度、全会員数に対する年会費納入率は約 60%であり、未納会員も少なからぬ状況でした。幸い、本年2月に納入依頼通知を未納会員の方に再送させていただきましたところ、4月現在、昨年度年会費納入率は約 73%にまで上昇いたしました。昨年ほどの上昇はみられません、一定のご理解は得ているものと思われま。

前回の研究通信に掲載されております会計報告のとおり、本研究会の財政状態は年々厳しさを増しております。研究会の発展と円滑な運営のため、なにとぞ会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げる次第です。本年度会費の納入の詳細につきましては、同封しております納入依頼通知をご覧ください。

年会費は5,000円です。大学院等在学、あるいは日本学術振興会特別研究員の各位には「院生・学生会費（年会費 3,000円）」制度が適用されます。過年度分年会費未納の会員各位には、同封書類に、未納年度と本年度会費分を含めた金額総計をご連絡しております。年会費3ヶ年度分以上の滞納会員には、研究会継続参加のご意志を年会費納入によって確認できるまで、大学史研究会からの諸連絡や「研究通信」、紀要「大学史研究」等の発送を停止することになっております。該当会員へのご連絡通知には、これに関する事項が記載されておりますので、ご留意願います。

#### 年会費納入払込先

郵便振替口座 大学史研究会 口座番号 00120-3-47583  
または  
銀行口座 大学史研究会 三井住友銀行 池袋東口支店（店番 671）  
普通預金（口座番号 3456109）

（事務局会計担当 杉谷祐美子）

#### 会員名簿の正誤表作成と情報提供のお願い

通信49号にお伝えしたとおり、本研究会の会員名簿を2月に発行し、会員の皆様にお届けいたしました。昨年5月の名簿に関する調査にご協力頂いた皆様には、お礼を申し上げます。この名簿にかかわり、以下のお願いをいたします。

##### 1) 正誤表の作成について

会員名簿の発送後、記載事項について誤字・誤記があったとして、事務局にご連絡がありました。本研究会では長らく会員名簿を発行しておらず、事務局内での試行錯誤の末今回の名簿を発行いたしました。そのような慣れない中での作業の結果、会員の皆様にとって趣旨に添わない形で掲載されてしまったことにつき、心からおわび申し上げます。そこで、会員名簿に関する誤字・誤記をまとめた正誤表を作成し、次号の通信(第51号)に同封することとしました。正誤表への記載を希望される方は、下記の要領にてご連絡ください。

##### a) 同封の修正表による申請

今号に訂正用の用紙を同封いたしました。修正箇所をご記入いただき、用紙に記載されている住所にご送付下さい。まことに申し訳ありませんが、郵送料等をご負担いただけますよう、お願いいたします。

##### b) 電子データを用いた申請

今回同封した用紙と同様のフォームを、大学史研究会ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jshshe/>) にてダウンロードできるように致しました。データを入力した上、事務局代表Eメールアドレス ([jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp](mailto:jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)) に添付していただくか、プリントアウトしたものを郵送していただくなどして、ご連絡ください。

## 2) 異動に伴う会員情報更新の届け出について

新年度となり、住所や所属（昇任・学位取得も含む）に変更のある会員は、事務局までご一報くださるようお願いいたします。また、教授・研究のために海外にご滞在予定の方も、海外でのご連絡先をお教えてください。ご連絡にあたっては、今回同封した用紙や、ホームページ掲載のフォーム、あるいは年会費払込票（郵便口座）の「通信欄」を利用することも可能です。なお、次回の会員名簿は2010年発行の予定です。

（事務局名簿担当：岡田大士）

## 会員新刊ニュース

- 1) 井上琢智『黎明期日本の経済思想—イギリス留学生・お雇い外国人・経済学の制度化』日本評論社、2006年11月刊。
- 2) 鳩沢歩『ドイツ工業化における鉄道業』有斐閣、2006年10月刊。

## 「会員新刊ニュース」情報提供のお願い

本通信では、会員の研究活動の紹介を心がけておりますが、編集者の情報のみでは限界があります。新刊を発行されたご本人、あるいは会員が新刊を発行されたという情報を得られた方は、事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）もしくは本紙編集担当の田中までご一報頂ければ幸いです。

## 退会者の報告

以下の会員の方が退会されました。長い間本会の活動にご協力賜りまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

退会者： 望田幸男 会員、高橋正立 会員、三宅 博 会員

## 原稿募集

『大学史研究通信』第51号は2007年8月31日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催の行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）もしくは本紙編集担当の田中までお願いいたします。

## 住所・所属変更届のお願い

住所や所属（昇任・学位取得も含む）に変更のある会員は事務局までご一報くださるようお願いいたします。また、教授・研究のために海外にご滞在予定の方も、海外でのご連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は事務局代表Eメールアドレス（jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）までお願いいたします。なお、変更届にあたっては、年会費払込票（郵便口座）の「通信欄」を利用することも可能です。

## 『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第14号～現在発行号までを希望者に頒布いたします。事務局代表Eメールアドレス(jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)までご連絡ください。折り返し、請求方法をご連絡いたします。

### 編集後記

私も含めて学会員の皆様の多くは、院生時代に読むよう強く勧められた本の一つが、マーチン・トロウ著、天野郁夫・喜多村和之訳(1976)『高学歴社会の大学—エリートからマスへ—』東京大学出版会、だったのではないのでしょうか。高等教育の量的拡大と質的変容は、エリート・マス・ユニバーサルという単線系の発展段階でモデル化できる、というこの本の指摘に、皆様は少なからず知的な刺激を受けたはずです。

トロウ・モデルが世に出てから30年以上がたち、現在モデルを歴史的に検証できる状況にあります。言い換えれば、今こそトロウ・モデルの歴史的検証の意義を本学会で再度強調すべき時かもしれません。会員の皆様の積極的なご提案、事務局一同、お待ちしております。

(田中 正弘 記)

『大学史研究通信』第50号の編集は事務局・田中正弘が担当いたしました。

連絡先 〒690-8504 松江市西川津町1060  
島根大学 教育開発センター  
TEL: 0852-32-9848 FAX: 0852-32-6059  
E-mail: [masatana@soc.shimane-u.ac.jp](mailto:masatana@soc.shimane-u.ac.jp)

『大学史研究通信』第51号は、2007年8月31日発行予定です。

### 大学史研究会事務局

〒635-8530 奈良県大和高田市東中127  
奈良文化女子短期大学 吉村日出東研究室内 大学史研究会  
TEL: 0745-52-1279 E-mail: [yosimura@narabunka.ac.jp](mailto:yosimura@narabunka.ac.jp)  
URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jshshe/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表Eメールアドレスまでお願いいたします。  
E-mail: [jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp](mailto:jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)

### 大学史研究会事務局員 (五十音順)

岡田 大士 (政策研究大学院大学)	杉谷 祐美子 (青山学院大学)
田中 正弘 (島根大学)	福石 賢一 (九州女子大学)
福留 東土 (一橋大学)	吉野 剛弘 (東京電機大学)
吉村 日出東 (明治大学)	